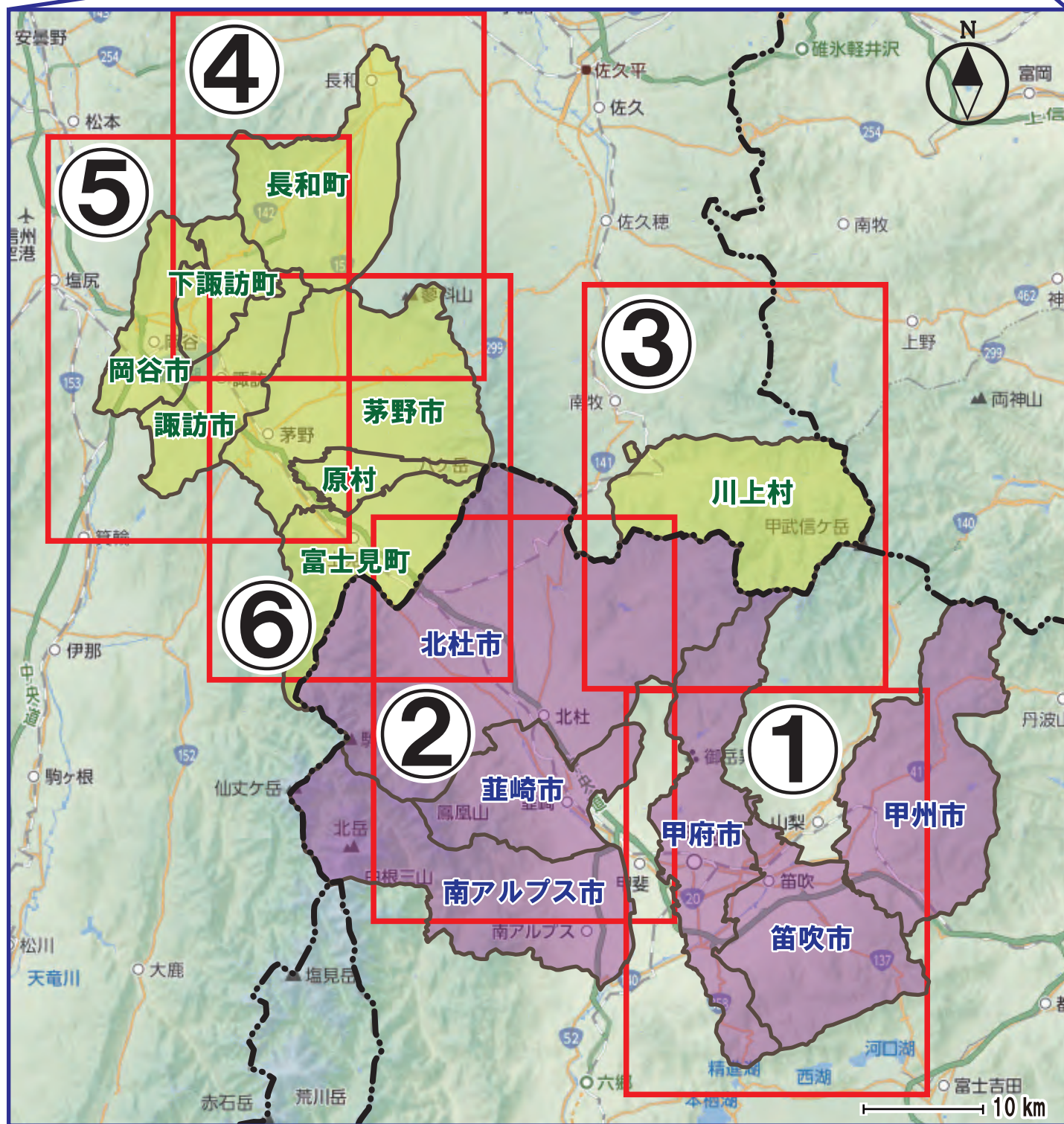
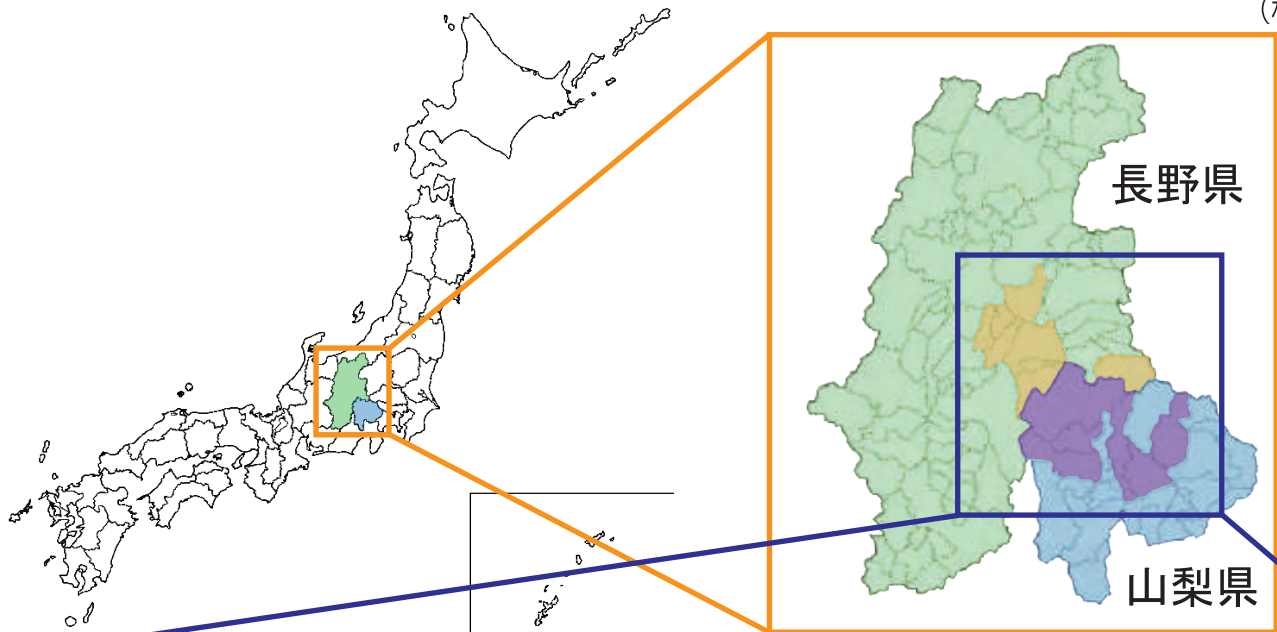


① 申請者	◎長野県（茅野市、富士見町、原村、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、長和町、川上村） 山梨県（甲府市、北杜市、韮崎市、南アルプス市、笛吹市、甲州市）	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
<h1>星降る中部高地の縄文世界</h1> <p>—数千年を <small>さかのぼ</small>る黒曜石鉾山と縄文人に出会う旅—</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉾山がある。鉾山の森に足を踏み入ると、そこには縄文人が掘り出したキラキラ <small>かがや</small>く黒曜石のカケラが一面に散らばり、星降る里として言い伝えられてきた。日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として日本の各地にもたらされた。</p> <p>麓のムラで作られたヒトや森に生きる動物を描いた土器やヴィーナス土偶を見ると、縄文人の高い芸術性に驚かされ、黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができる。</p>			



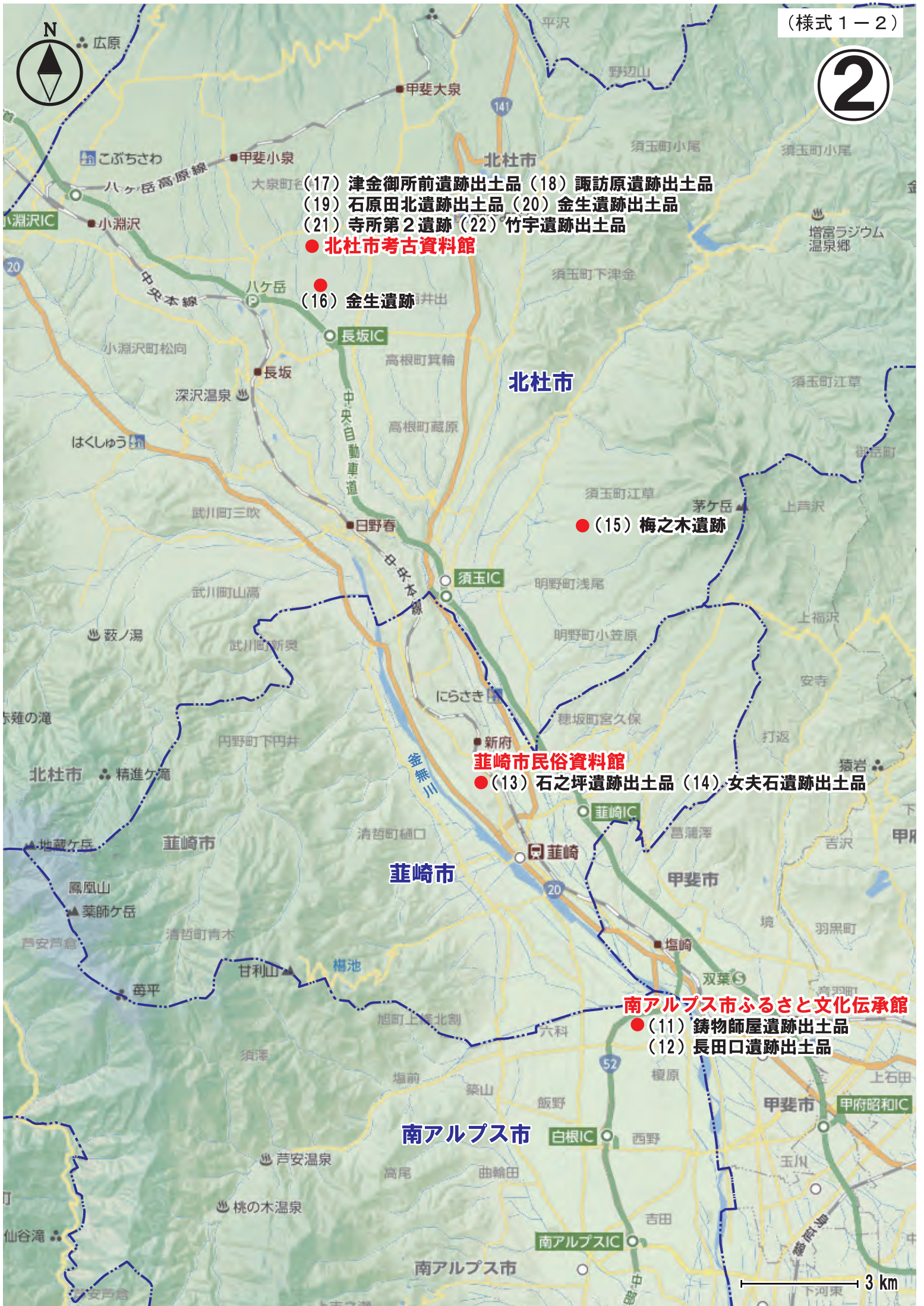


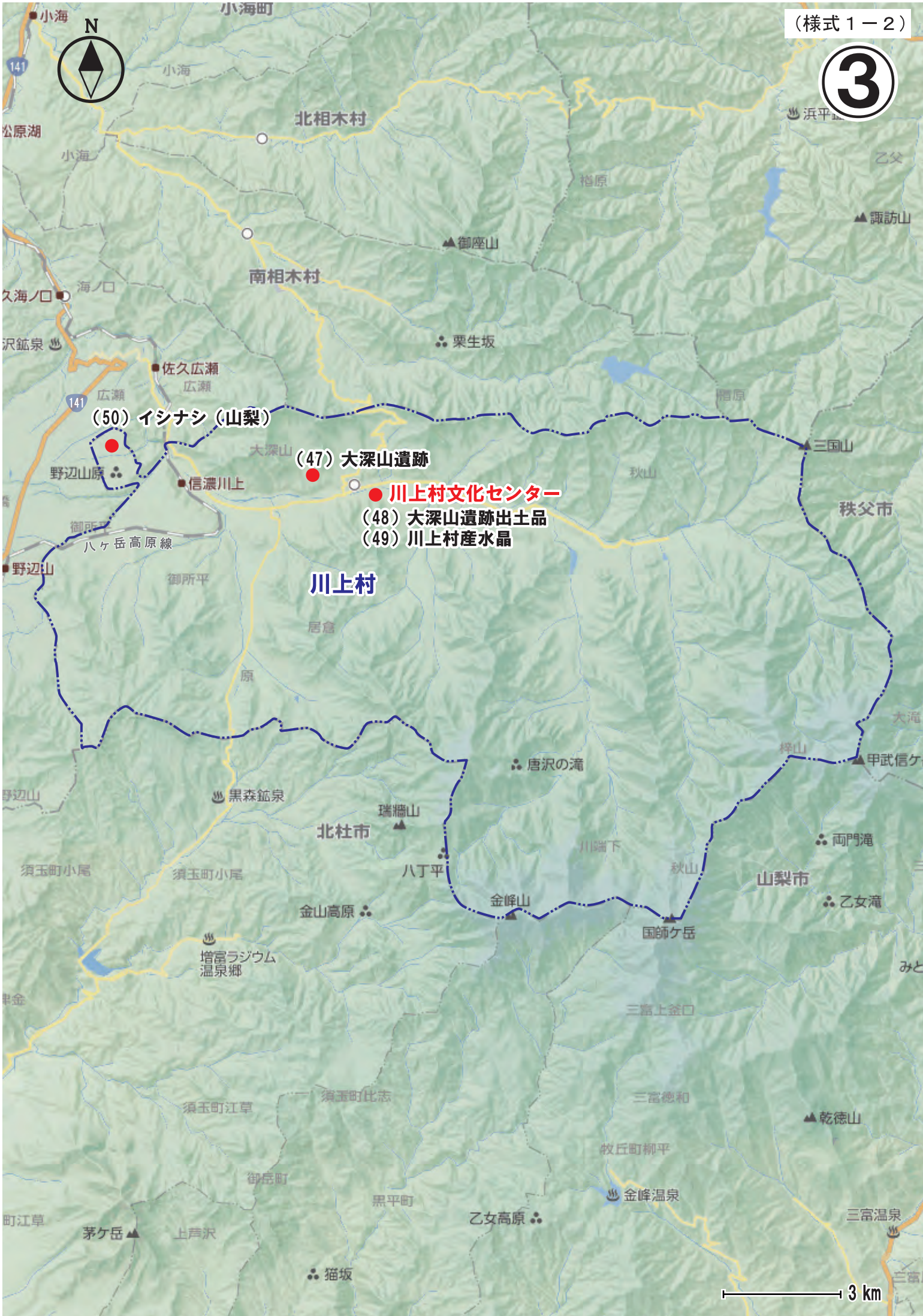
甲府市
藤村記念館
 ● 甲府 (69)後呂遺跡出土品

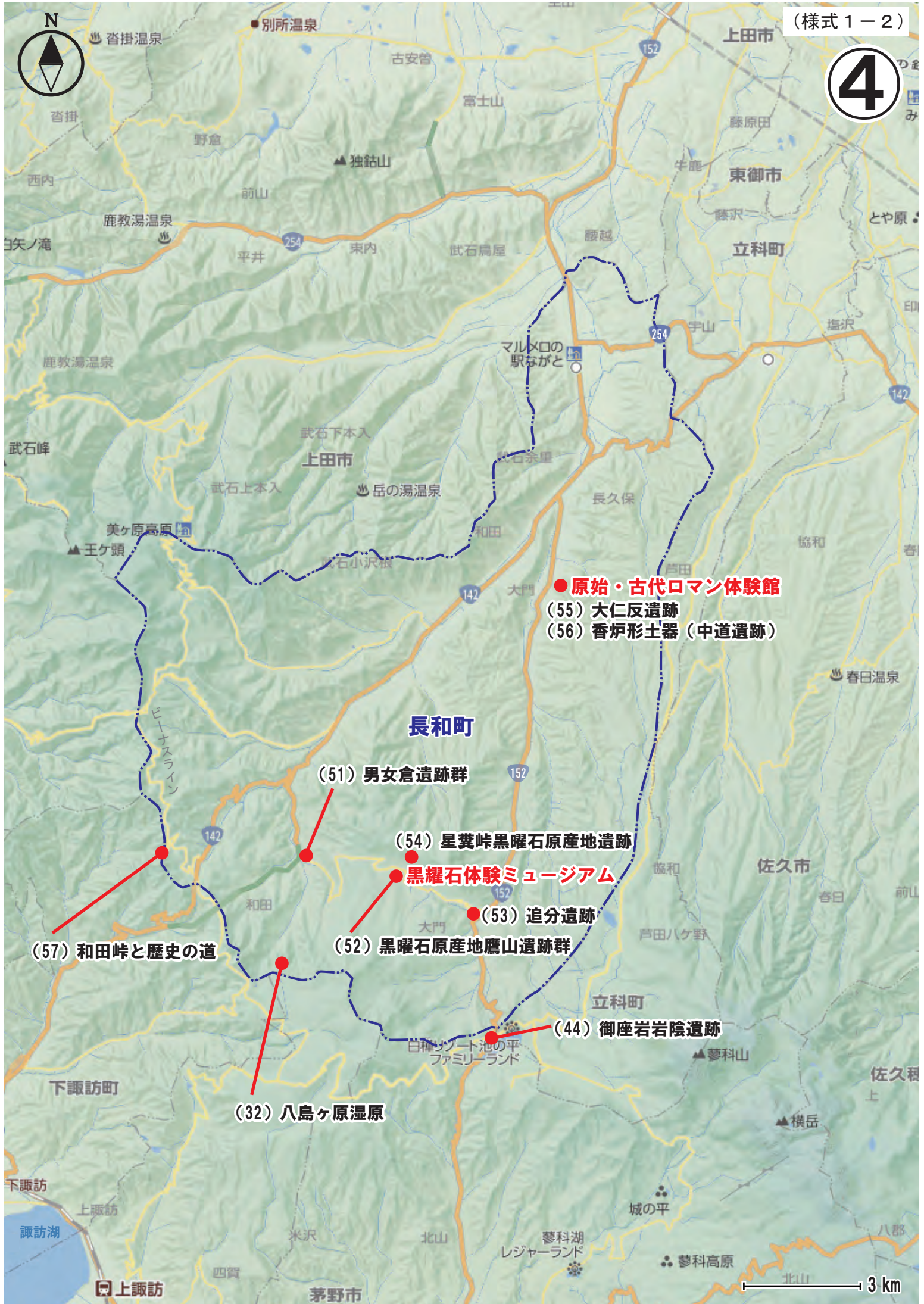
(10) 釈迦堂遺跡出土品
釈迦堂遺跡博物館

山梨県立博物館
 ● (9) 桂野遺跡出土大型深鉢土器

- 山梨県立考古博物館**
- (1) 深鉢形土器 (殿林遺跡出土品)
 - (2) 一の沢遺跡出土品
 - (3) 酒呑場遺跡出土品
 - (4) 海道前C遺跡土坑出土品
 - (5) 安道寺遺跡出土品
 - (6) 原町農業高校前遺跡出土品
 - (7) 甲ッ原遺跡出土品
 - (8) 天神遺跡出土品
 - (69) 上野原遺跡出土品







● **原始・古代ロマン体験館**
 (55) 大仁反遺跡
 (56) 香炉形土器 (中道遺跡)

長和町

(51) 男女倉遺跡群

(54) 星箕峠黒曜石原産地遺跡

● **黒曜石体験ミュージアム**

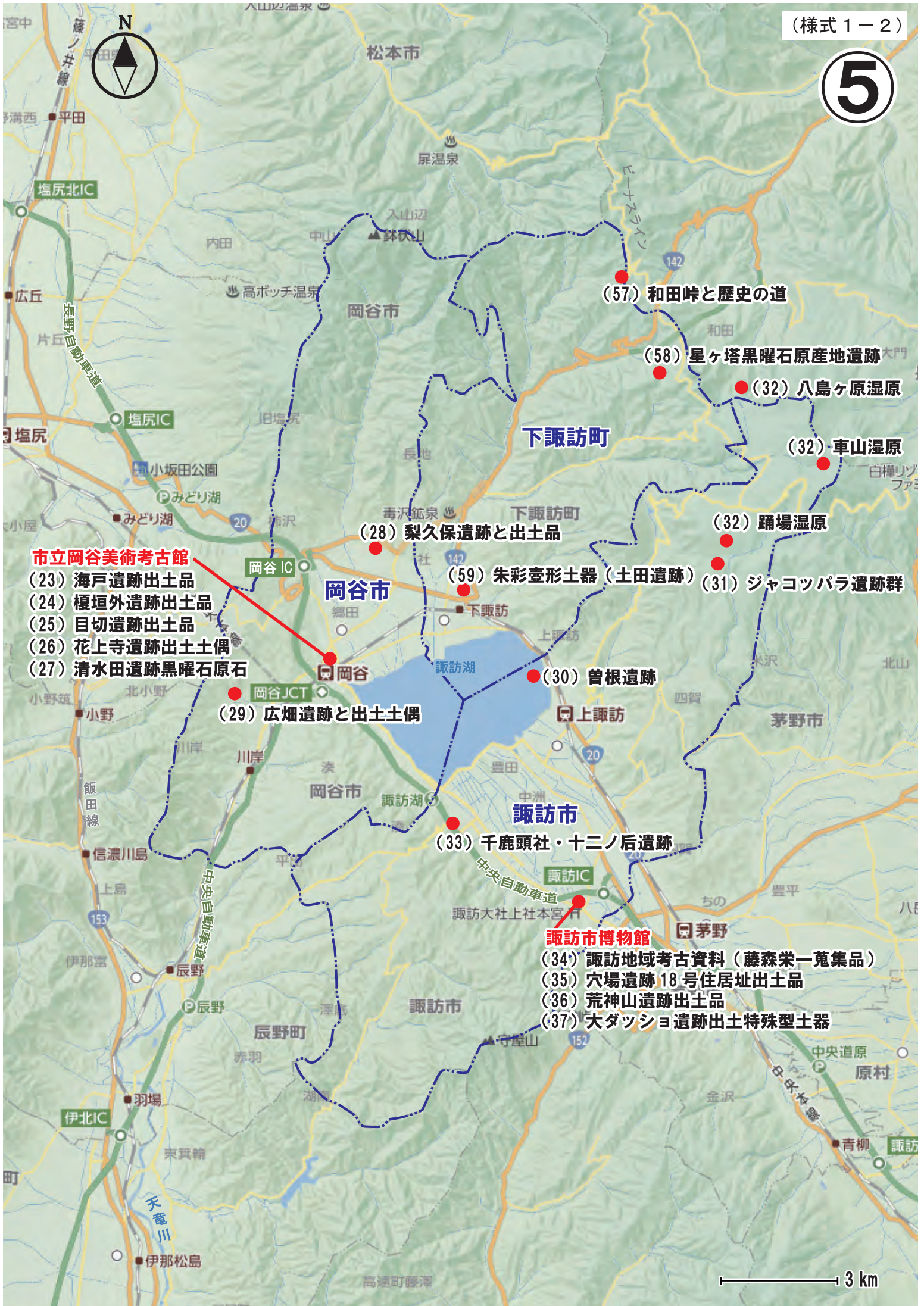
(53) 追分遺跡

(52) 黒曜石原産地鷹山遺跡群

(57) 和田峠と歴史の道

(44) 御座岩岩陰遺跡

(32) 八島ヶ原湿原



市立岡谷美術考古館

- (23) 海戸遺跡出土品
- (24) 榎垣外遺跡出土品
- (25) 目切遺跡出土品
- (26) 花上寺遺跡出土土偶
- (27) 清水田遺跡黒曜石原石

(29) 広畑遺跡と出土土偶

(28) 梨久保遺跡と出土品

(59) 朱彩壺形土器 (土田遺跡)

(30) 曾根遺跡

(33) 千鹿頭社・十二ノ后遺跡

諏訪市博物館

- (34) 諏訪地域考古資料 (藤森栄一蒐集品)
- (35) 穴場遺跡 18号住居址出土品
- (36) 荒神山遺跡出土品
- (37) 大ダツシヨ遺跡出土特殊型土器

(57) 和田峠と歴史の道

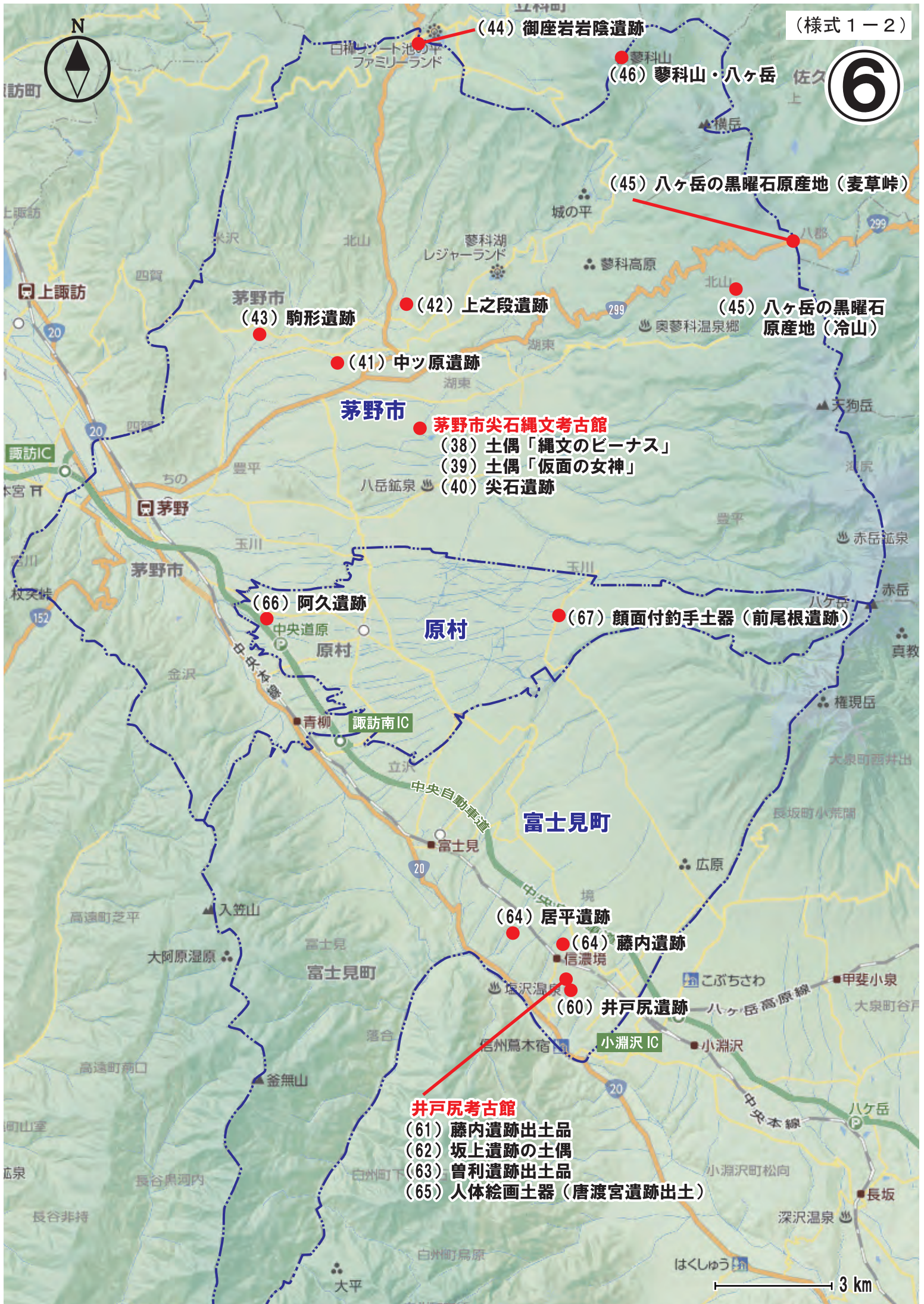
(58) 星ヶ塔黒曜石原産地遺跡

(32) 八島ヶ原湿原

(32) 車山湿原

(32) 踊場湿原

(31) ジャコツパラ遺跡群



(44) 御座岩岩陰遺跡

(46) 蓼科山・八ヶ岳

(45) 八ヶ岳の黒曜石原産地 (麦草峠)

(43) 駒形遺跡

(42) 上之段遺跡

(45) 八ヶ岳の黒曜石原産地 (冷山)

(41) 中ツ原遺跡

茅野市

- **茅野市尖石縄文考古館**
- (38) 土偶「縄文のビーナス」
- (39) 土偶「仮面の女神」
- (40) 尖石遺跡

(66) 阿久遺跡

原村

(67) 顔面付釣手土器 (前尾根遺跡)

富士見町

(64) 居平遺跡

(64) 藤内遺跡

(60) 井戸尻遺跡

井戸尻考古館

- (61) 藤内遺跡出土品
- (62) 坂上遺跡の土偶
- (63) 曾利遺跡出土品
- (65) 人体絵画土器 (唐渡宮遺跡出土)

ストーリー

黒く耀く石の魅力

精緻で多様な形の道具を作り出す日本列島のものづくりの文化は、約3万数千年前に大陸から渡って来た現生人類の石器づくりにそのルーツがある。

そうした石器の材料を代表するのが、火山が生み出した天然ガラスである黒曜石である。なかでも、信州産の黒曜石は良質なものが多く、割れ口が鋭く加工しやすいため、矢じりやナイフをはじめとする多彩な石器づくりの材料として当時の人々に好まれ、広く利用された。今日のような運送手段がなかった昔、数万年にわたって産地限定の黒曜石が大量に、しかも広域に流通していた事実は、この資源が日本最古のブランドとして人気が高かったことを物語っている。



星糞峠産の黒曜石原石

黒曜石縄文鉦山から全国へ

中部高地の深い森の頂には、縄文人が数千年にわたって黒曜石を掘り続けた国内唯一の黒曜石鉦山がある。霧ヶ峰高原の一面にある星糞峠の黒曜石鉦山を訪れると、数千年の時を経た今でも縄文人が黒曜石を掘り出していた痕跡を、環状にめぐる土手の中央部にクレーター状の窪みとして目にすることができる。不思議なこの地形は、採掘坑の周囲に掘り捨てた土砂が積み重ねられてできたものである。縄文人が掘り出した土砂の厚みは優に5mを超え、地下では3,500年前に構築された土砂崩れを防ぐための木柵がそのままに発見された。より良い石材を獲得しようとした縄文人の苦勞と熱い思いが伝わってくる。

国内でも希少な黒曜石鉦山は、星糞峠、星ヶ塔など星の名がつく高原地帯で発見されている。標高1500mを超えるこれらの場所には、キラキラ光る黒曜石のかけらがたくさん散らばっている。我々の祖先は夜空に瞬く無数の星を見上げ、黒曜石のかけらを大地に降り積もった星のかけらと信じてこうした地名が生まれた。峠から見上げる満天の夜空の耀きは、数千年を経た今も変わらぬ耀きを足元に投じている。

鉦山から掘り出された耀く黒曜石は、山裾のムラからムラへと持ち運ばれ、ムラを結ぶ道は「黒曜石の道」となった。八ヶ岳山麓には、大量の黒曜石が集められた大きなムラが点々と存在する。そこは良質な信州産の黒曜石を求めて遠くの地域から訪れる縄文人との出会いの場となり、東西文化の交流ネットワークが結ばれたのである。

恵み多き八ヶ岳山麓の縄文ムラへ

高原地帯から山麓に広がる台地へと、中部高地の縄文人は標高差1,000mに及ぶ多様な環境を活動の舞台としていた。今からおよそ5,000年前、日本で最大のムラ数を誇るに至った縄文時代中期の山麓文化は、その資源環境を活かす術によって開花したものである。

縄文鉦山から落葉広葉樹の深い森を通り麓のムラをめざす。ムラに近づくと明るい雑木林に変化する。縄文時代のムラの姿を守り伝える長野県の尖

石遺跡では、竪穴住居が立ち並び、当時の風景が私たちを迎えてくれる。ムラの周囲には、食糧や建築材、そして燃料としても最適であったクリなどが育てられていた。実を付けない木は伐採され、食を支えたドングリやクルミなどの大きな実をつける木が選ばれていった。広大な森林の懐には、家族が集い、遠方からの旅人を迎えたムラが数多く営まれていたのである。農耕民族と言われる日本人がつくりだした田園風景のルーツは、米づくりを始めた弥生時代にその風景を求めることもできる。し



尖石遺跡の縄文ムラ

かし、それよりもはるか数千年～数万年前には違った風景が広がっていた。我々の記憶の奥にしまい込んでしまった真の日本のルーツとなる森や山に囲まれた風景である。中部高地の一带では、今に残る豊かな自然と遺跡の姿から懐かしいその風景を臨むことができる。集落を包む森を抜け、山麓を刻む清らかな水を集めた大きな川のほとりに立つと、森の背後には空に向かって立ち並ぶ八ヶ岳や南アルプスなど雄大な山並みが見え、四季折々の自然の営みがパノラマのように展開する。

標高の高い山麓地帯の春は雪解けとともに里から山へと訪れ、ワラビやコゴミなどの新鮮な山菜が一斉に顔をだす。そして、深い緑に包まれた山並みが里へと吹き抜ける風と共に鮮やかな秋の紅葉へと姿を変える頃、山ブドウやドングリの結実とキノコの便りを目にするができる。縄文人たちも、この景色の移ろいの中に恵みの到来と地の利を知り、再び訪れる厳しくも静かな冬を乗り切る貯えの知恵を培ったのである。今に伝わる多種多様な食材とその文化は、数千年の昔より雄大な自然と向き合う伝統から生み出された。

中部高地の玄関口となる山梨県の梅之木遺跡のムラからは、幾重にも連なる山並みを間じかに見渡すことができる。関東の平野から、遠き山並みを目指して足を運んだ縄文人たちも、この地に立ち、奥深い山麓の恵みに胸を高鳴らせたに違いない。

森に集う縄文人に会いに行こう

土器に水の流れ、森に育つ草木、そしてその世界に生きていた人や動物の姿を立体的に描く、国内外でも類例のない土器文化が発達した。それは縄文芸術の極みでもある。

器の中を覗き込むように母の顔をつけた土器は、中身が煮えるのを楽しみに見守っていたのだろうか。家族が囲む土器鍋には、母から生まれようとする子どもの顔や歌を歌い踊るようなヒトの姿も描かれている。森の芸術家縄文人が残した作品は、まるで当時の生活の一コマをそのままに伝えているようだ。土器に映し出された家族の顔や様々な表情を持つ土偶は、数千年の時空を超えて今を見つめている。



縄文芸術家たちの作品

縄文人の心に触れる

黒曜石鉱山を開発し、交易ルートを開拓し、クリ林を育てるなどの技術を手にした縄文人だったが、どうしようもないことが起きた時、あるいは日頃の感謝をこめて、カミに“祈る”ことが重要だった。中でも、子どもの誕生と健やかな成長への願いは、私たちがヴィーナスや女神と呼んでいる妊娠女性の姿をした土偶への祈りに託された。長野県中^{なかつぼら}原遺跡の現地に立つと、役割を終えてムラの中央に埋納された「仮面の女神」を、発掘された瞬間の復元模型でみることができる。また、博物館では、個性的な表情のヴィーナスたちに出会うことができる。

天体の周期に生命の誕生や再生を祈るマツリの事例もある。冬至など特別な日に太陽が山頂に沈む場所に位置する北杜市^{きんせい}金生ムラの遺跡では、山頂を臨む位置に祭壇を作るマツリが繰り返し行われていた。マツリの姿は、自然の営みとともに生きる狩猟採集民であった縄文人の純粋な心を伝えている。

日本列島源流文化発見の旅へ

中部高地では、太古から変わらぬ雄大な景観の中、縄文人が黒曜石を運んだ道をたどり山麓の縄文ムラの跡を訪ね、命の躍動を表現した母なるヴィーナスや森に潜む動物をモチーフとする造形に優れた原始芸術に出会い、今につながる縄文人の世界に思いを馳せることができる。胸の奥底にしまい忘れた遠い記憶、自然とともにあった日本文化の源流にタイムスリップしてみよう。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	深鉢形土器 (殿林遺跡出土)	国重文 (考古)	縄文芸術 中部高地を代表する大型の土器。日本固有の原始美術品として海外でも評価が高い。[山梨県立考古博物館]	山梨県甲府市
②	一の沢遺跡出土品	国重文 (考古)	縄文芸術 端正な顔の土偶の「いっちゃん」。出土した深鉢形土器は口縁部に大きな把手を付け、胴部がくびれ、底部はそろばん玉形で、縄文時代中期の特徴を示す。また土器の表面の風化が少なく造形美に加えてお肌美人の土器が多い。[山梨県立考古博物館]	山梨県甲府市
③	酒呑場遺跡出土品	国重文 (考古)	縄文芸術 八ヶ岳南麓の中部高地を代表する大規模な集落跡の出土品一括。その学術的価値は高い。[山梨県立考古博物館]	山梨県甲府市
④	海道前C遺跡土坑出土品	県指定	縄文人に出会う 人面把手が付けられた出産を表す土器。①の出産土器は胴部から赤ちゃんの顔が出ているがこの土器は出産直前の様子を示すものと考えられる。男性のシンボルである石棒とともに埋納されていた。[山梨県立考古博物館]	山梨県甲府市
⑤	安道寺遺跡出土品	県指定	縄文芸術 大型の水煙文土器、四単位の大型把手が付いたすぐれた造形美をもち、特別なマツリが行われた土器がある。[山梨県立考古博物館]	山梨県甲府市
⑥	原町農業高校前遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う のっぺらぼうのように目鼻口のない人面付土器が出土している。住居跡が100軒以上確認されている大集落遺跡からの出土品。[山梨県立考古博物館]	山梨県甲府市

⑦	かぶつばら 甲ッ原 遺跡出土品	未指定	縄文人の想い イノシシ形大型把手が付いた土器、東北地方産のコハク玉も出土している。縄文時代前期から中期の大集落遺跡の出土品。[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市 北杜市
⑧	てんじん 天神 遺跡出土品	未指定	黒曜石大型原石、大型ヒスイのペンダントなど他地域との交流を示す出土品。縄文時代前期～中期の大集落[山梨県立考古博物館]	山梨県 甲府市
⑨	かつらの 桂野 遺跡出土大型深鉢 土器	県指定	縄文芸術 他に類例がない渦巻文だけで構成される土器。桂野遺跡からは、立つ土偶「みさかカップ」も出土。[山梨県立博物館]	山梨県 笛吹市
⑩	しゃかどう 釈迦堂 遺跡出土品	国重文(考古)	縄文人に会う 復元可能な土器は約 1200 点。土偶は、1116 点のほとんどが故意に壊されている。土偶の質・量において他遺跡を圧倒する。高さ約 70 c m の大型水煙文土器もある。[釈迦堂遺跡博物館]	山梨県 甲州市 笛吹市
⑪	いもじや 鋳物師屋 遺跡出土品	国重文(考古)	縄文人の心 土偶に似た女神像で飾られた土器。また大型土偶「子宝女神ラヴィ」など優品が多い。[南アルプス市ふるさと文化伝承館]	山梨県 南アルプス 市
⑫	おきたぐち 長田口 遺跡	未指定	黒曜石の大型の原石 3 点が出土。大型の黒曜石は交換財としての価値があり、黒曜石原産地域との密接な交易があったと推定されている。[南アルプス市文化伝承館]	山梨県 南アルプス 市
⑬	いしのつぼ 石之坪 遺跡出土品	未指定	縄文人の心 土器のまわりに、不思議な動物文が巡っている特異な土器。[韮崎市民俗資料館]	山梨県 韮崎市
⑭	めおといし 女夫石 遺跡出土品	未指定	縄文人の心・想い 巨石を中心に土偶が 100 点以上出土、その巨石からは、春分・秋分の日、南アルプス鳳凰三山の地蔵ヶ岳のオベリスクに日が沈む。[韮崎市民俗資料館]	山梨県 韮崎市

⑮	うめのき 梅之木 遺跡	国史跡	縄文ムラの景観 水場へ至る道跡が確認され集落の構造が解明できる貴重な縄文時代中期の環状集落遺跡。	山梨県北杜市
⑯	きんせい 金生 遺跡	国史跡	縄文ムラの景観 縄文人の想い 冬至に南アルプス甲斐駒ヶ岳に夕日が沈む光景が見られる。縄文時代中期・後期・晩期の祭祀遺跡。	山梨県北杜市
⑰	つがねごしよまへ 津金 御所前 遺跡出土品	県指定	縄文人に出会う 口縁部に顔面の把手がつき、胴部に人面が表現され出産の様子を表した土器。[北杜市考古資料館]	山梨県北杜市
⑱	すわばら 諏訪原 遺跡出土品	未指定	縄文美人に出会う 女神像が付いた土器。鋳物師屋遺跡出土の「女神像で飾られた土器」と類似する。[北杜市考古資料館]	山梨県北杜市
⑲	いしほらだきた 石原 田北 遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う 人体文が付いた大型の双円文 装飾土器。高さ約1mの中部高地最大級の土器。[北杜市考古資料館]	山梨県北杜市
⑳	きんせい 金生 遺跡出土品	未指定	黒曜石原石、大型中空土偶。集落は縄文時代中期に始まり後期・晩期に発展する。[北杜市考古資料館]	山梨県北杜市
㉑	てらどこ 寺所 第2 遺跡	未指定	黒曜石原石、サンショウオとも言われる不思議な動物文で飾られた土器。住居跡が100軒以上確認されている大集落遺跡の出土品。[北杜市考古資料館]	山梨県北杜市
㉒	ちくう 竹宇 遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う 子供の顔は円形で表現されているが、全体の文様構成から出産土器と考えられている。[北杜市考古資料館]	山梨県北杜市
㉓	かいど 海戸 遺跡出土品	国重文(考古)	縄文美人に会う。つり上がった切れ長の目や上向きの鼻、小さくあいた丸い口、深くくびれた胴などの美しさは、5000年の時を経て、さらに私たちに魅了してくれる。[市立岡谷美術考古館]	長野県岡谷市

②④	えのきがいと 榎垣外 遺跡出土品	市有形文化財	縄文芸術 美しい女性と対峙し、男性の象徴を意味する蛇を荒々しく描いた縄文人の表現力には圧倒される。 [市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑤	めきり 目切 遺跡出土品	市有形文化財	壺を持つ妊婦土偶はとてもおしゃれな縄文女性が可愛らしく表現されている。クールジャパンの造形の代表のひとつ。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑥	かじょうじ 花上寺 遺跡出土 土偶	市有形文化財	高さ 4cm の超小型土偶であるが、小さいながらも目、口、鼻、手指などの細部もしっかり表現されていて、とても愛おしく感じられ、縄文芸術に触れることができる。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑦	しみずだ 清水田 遺跡 こくようせきぎげんせき 黒曜石 原石	未指定	麓のムラの大きな黒曜石 重さ 6.5kg もある巨大な黒曜石原石。宝の山から得た黒曜石を打ち欠き、石器をつくっていたムラの姿が想像できる。[市立岡谷美術考古館]	長野県 岡谷市
②⑧	なしくぼ 梨久保 遺跡と出土品	国史跡 市有形文化財	黒曜石・コハク・ヒスイの分配にかかわったムラ 黒曜石原産地に最も近いムラ。良質な黒曜石を求めて、多くの縄文人が集まり、東西文化交流の拠点の地となった。また、コハク・ヒスイ・黒曜石といったブランド品が集散したことを示す。日本海と太平洋を繋ぐ交流地域であったことを現代人に語りかけてくれる。	長野県 岡谷市
②⑨	広畑遺跡と出土土偶	市史跡 市有形文化財	山の幸を享受した縄文ムラの景観。 出土土偶は古来のお産の姿である座産のような表現がされている。	長野県 岡谷市
③⑩	そね 曾根 遺跡	県重要遺跡・ 市史跡	黒曜石の匠 諏訪湖底に眠る縄文時代初頭水中遺跡。黒曜石製矢じりを作った生産遺跡。矢じりづくりには優美かつ卓越した加工技術が垣間見られる。	長野県 諏訪市

③①	ジャコッパラ遺跡群	未指定	縄文ムラの周囲に広がる霧ヶ峰高原の狩猟場。落葉を陥し穴の蓋に利用した状態が発掘された。	長野県 諏訪市
③②	八島ヶ原湿原・車山湿原・踊場湿原	国天然	霧ヶ峰高原の湿原。湿原は動物たちにとっても貴重な水場であった。縄文人にとっても格好の狩場となった。	長野県 諏訪市 ・下諏訪町
③③	ちかとうしや じゅうにのき 千鹿頭社・十二ノ后 遺跡	未指定	山麓湖盆を望む縄文前期の集落遺跡。御柱の起源かとも考察された木柱を立てた跡も見つかる。	長野県 諏訪市
③④	諏訪地域考古資料 (藤森栄一蒐集品)	国登録有形文化財 (美術工芸品)	諏訪地域だけでなく国内の縄文文化を語る上でも各所で取り上げられてきた著名な資料群。曾根遺跡出土品のほか、新道遺跡土器セットは縄文農耕論の基礎資料として有名。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑤	あなば 穴場 遺跡 18 号住居址 出土品	市有形文化財	縄文芸術 繁栄や豊穰を祈る縄文祭祀の姿を示す遺物の出土例。そのうち蛇体文付釣手土器は中部高地縄文土器造形の典型の一つ。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑥	こうじんやま 荒神山 遺跡出土品	未指定	大きく芸術的な縄文土器 市内発見の縄文中期土器群の代表格。縄文人が栽培したとみられる種子 (エゴマ?) が炭化物として発見され、縄文時代の植物栽培を肯定するきっかけとなった。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑦	おお 大 ダッシュヨ 遺跡出土 特殊型土器	市有形文化財	縄文人の心 繁栄や豊穰を祈る縄文祭祀に関わったとみられる特殊な形状 (革袋状?) をした土器。[諏訪市博物館]	長野県 諏訪市
③⑧	土偶「縄文のビーナス」	国宝 (考古)	縄文人の心 約 1000 年間続く八ヶ岳山麓の縄文時代中期の繁栄の始まりを予感させるボリューム感あふれる土偶。[茅野市尖石縄文考古館]	長野県 茅野市

③⑨	土偶「仮面の女神」	国宝（考古）	縄文人の心 精緻な文様構成は、世界中から造形的な高い評価がある。[茅野市尖石縄文考古館]	長野県茅野市
④⑩	とがりいし 尖石 遺跡	特別史跡	縄文ムラの景観 八ヶ岳山麓を代表する縄文時代中期の集落として、約1000年間にわたり繁栄を続けた拠点的集落。広大な面積の史跡公園となっており、復元された複数の竪穴住居のまわりには縄文の里山が広がる。まさに縄文の原風景を満喫できるスポットである。	長野県茅野市
④⑪	なかっぱら 中ッ原 遺跡	未指定	縄文ムラの景観 国宝土偶「仮面の女神」が出土した遺跡。女神が埋まっていた様子を模型で再現、また御柱のように建てた柱が復元された公園となっている。	長野県茅野市
④⑫	うえのだん 上之段 遺跡	史跡	黒曜石のムラ 黒曜石原産地である霧ヶ峰の星ヶ塔、星糞峠に最も近い集落で、諏訪地方と小県を結ぶ人と文化の交流の拠点。	長野県茅野市
④⑬	こまがた 駒形 遺跡	史跡	背後の山を上り詰めたところに霧ヶ峰黒曜石原産地があり、 黒曜石の集積と搬出の拠点 。近くには茅野市最大の水源である大清水がある。	長野県茅野市
④⑭	ございわ 御座岩 岩陰遺跡	県史跡	黒曜石のミチ 諏訪地方と小県を結ぶ峠の頂点にあり、かつて池之平湿原であった地は狩猟の場として、また、人と文化の交流の中継点となった。	長野県茅野市
④⑮	八ヶ岳の黒曜石原産地	未指定	黒曜石の露頭 ^{つめたやま} 冷山 と麦草峠はともに黒曜石の原産地、特に冷山は大型バスほどの黒曜石の露頭がみられる。	長野県茅野市
④⑯	たてしなやま 蓼科山・八ヶ岳	未指定	縄文ムラから臨む景観 はるか遠方からも見える蓼科山は、諏訪富士とも呼ばれ、原村阿久遺跡の環状列石が指し示す山であるといわれている。縄文時代には格好の目印となった。	長野県茅野市

④⑦	おおみやま 大深山 遺跡	国史跡	標高 1300m、日本最高位の縄文中期集落跡。標高 1100m を限界とする甲信縄文集落の中では特別な存在。出土遺物からも山の集落を想像できる。	長野県 川上村
④⑧	大深山遺跡出土品	村有形	人面香炉形土器は人面を思わせる造形美と山の恵みに感謝する神秘性を垣間見ることができる逸品。[川上村文化センター]	長野県 川上村
④⑨	川上村産水晶	未指定	石器の材料として利用された高山帯の水晶[川上村文化センター]	長野県 川上村
⑤⑩	イシナシ (山梨)	村天然	春には白い花を咲かせ球果が食用となり、山の恵みを大切にしてきたことを垣間見る。	長野県 川上村
51	おめぐら 男女倉 遺跡群	町指定	旧石器時代に遡る日本最古のブランドの誕生を物語る豊富な出土遺物と併せて、山深き黒曜石原産地の河川流域のムラ風景を見渡すことができる。黒曜石の水を汲む人でにぎわう。	長野県 長和町
52	黒 ^{よう} 曜石原産地 鷹 ^{たか} 山 ^{やま} 遺跡群	未指定	観光地としても賑わう霧ヶ峰から美ヶ原高原に広がる原産地遺跡群のロケーションは、雄大な高層湿原に狩人達が集う黒曜石のふるさとの姿を想起させ、その地に残された出土資料からは、人々が集うところとなったオブシディアンストーリーをイメージすることができる。	長野県 長和町
53	おいわけ 追分 遺跡	未指定	黒曜石のミチ 黒曜石ブランドの流通基地となった当遺跡の存在は、黒曜石のふるさとから次なる地域へと、黒曜石3万年の足跡をドライブの過程で地形の変化を確かめながら辿る事が出来るスポットである。博物館に展示された出土資料と遺跡の 5m に及ぶ地層の展示は、その歴史を証明するものでもある。	長野県 長和町

54	ほしくるとうげ 星 麓 峠 黒曜石原産地遺跡	国史跡	世界最古級の 鉾山 として今に引き継がれた黒曜石ブランドのパワースポット。縄文人の活動痕跡が静かな森林の現地表面で直に見ることができる特異な鉾山遺跡は史跡公園として公開されており、訪れた人に時空を越えて当時の息づかいを伝えている。	長野県 長和町
55	おおにたん 大仁反 遺跡	未指定	黒曜石のムラ 全面保存となった遺跡とその近くにある資料館に展示されているこの遺跡の出土資料は、黒曜石鉾山を営み、その流通センターとなったムラとして、黒曜石ブランドめぐる人々の交流エネルギーを伝えている。	長野県 長和町
56	こうろがた 香炉形 土器 (なかみち 中道 遺跡)	未指定	縄文人の心 遺跡から出土した命の再生と持続を表現した特異な香炉型の縄文土器は、人々の命を支え続けた縄文社会の価値観と黒曜石流通への思いを今の私たちに語りかけている。	長野県 長和町
57	わだとうげ 和田峠 と歴史の道	国史跡	黒曜石の著名な原産地である和田峠は、旧石器・縄文時代から黒曜石資源を全国に送り出すオブシディアンロードの起点でも有り、古来より人の行き交う 黒曜石のミチ・歴史の道 として今に至っている。	長野県 長和町 下諏訪町
58	ほしがとう 星ヶ塔 黒曜石原産地遺跡	国史跡	縄文時代の 黒曜石鉾山 。縄文時代に各地へ黒曜石を供給した主力の鉾山。	長野県 下諏訪町
59	朱彩壺形土器 (つちだ 土田 遺跡)	下諏訪町文化財	北東北地方から持ち込まれた縄文土器。 黒曜石の流通 を背景として広域的に人々が交流していたことを物語る。	長野県 下諏訪町
60	いどじり 井戸尻 遺跡	国史跡	南アルプスを臨む中部高地の ムラの景観 。縄文農耕や、土器造形から豊かな精神世界を解明する舞台となった。	長野県 富士見町

61	とうない 藤内 遺跡出土品	国重要文化財 町有形文化財	縄文人の心に触れる 土器造形は、縄文の哲学ともいえる深い精神性の晶出したものであると同時に、高い芸術性が評価される。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
62	さかうえ 坂上 遺跡の土偶	国重文(考古)	縄文人の心に触れる 国宝「縄文のビーナス」「仮面の女神」と並び、八ヶ岳山麓を代表する像。中部日本に広がった同種の土偶の中で、その規範となる存在。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
63	そり 曾利 遺跡出土品	長野県宝	縄文芸術 八ヶ岳山麓から山梨県にかけて広がる曾利式土器。その標式となり、火焰(型)土器と並び、縄文土器を代表する水煙渦巻文土器が有名。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
64	とうない 藤内 遺跡・いだら 居平 遺跡	町史跡	中部高地縄文時代中期の前半期と後半期の典型的なムラ。	長野県 富士見町
65	人体絵画土器 (とうどのみや 唐渡宮 遺跡出土)	町有形文化財	縄文人の心に触れる 出産する女性が描かれた土器。縄文文化で唯一の具象的な絵画であり、日本最古の絵画資料でもある。[井戸尻考古館]	長野県 富士見町
66	あきゆう 阿久 遺跡	国史跡	縄文時代前期の大規模祭祀遺跡。中部高地の中期に栄えた縄文文化の原型となったムラ。ムラの広場中央に並べられた立石は蓼科山に向かっている。	長野県 原村
67	顔面付釣手土器 (まえおね 前尾根 遺跡)	未指定	縄文中期の大きなムラから出土した顔面付釣手土器は縄文人の心の拠り所としての祭祀を示す土器と思われる。[八ヶ岳高原美術館]	長野県 原村
68	うえのほら 上野原 遺跡出土品	未指定	縄文芸術 輝く雲母と丁寧に磨かれた艶、繊細な文様は甲府盆地から眺める朝もやそのもの。[山梨県立考古博物館・甲府市出土]	山梨県 甲府市
69	うしろ 後呂 遺跡出土品	未指定	縄文人に出会う 2つの顔は「笑い」と「怒り」か・・・。人面に対向する渦巻きは各々女性の後頭部を表現していると考えられ、出産の「苦しさ」と子を抱く「喜び」を込めたのかもしれない。[甲府市藤村記念館]	山梨県 甲府市

構成文化財の写真一覧

① 深鉢形土器 とのぼやし (殿林遺跡出土)



④ かいどうまなしー 海道前C遺跡土坑出土品



② いちのさわ 一の沢遺跡出土品



⑤ あんどうじ 安道寺遺跡出土品



③ さけのみば 酒呑場遺跡出土品



⑥ はらまちのうぎょうこうこうまな 原町農業高校前遺跡出土品



⑦ ^{かぶつぼら} 甲ッ原遺跡出土品



⑩ ^{しやかどう} 釈迦堂遺跡出土品



⑧ ^{てんじん} 天神遺跡出土品



⑩ ^{しやかどう} 釈迦堂遺跡出土



⑨ ^{かつらの} 桂野遺跡出土の大型土器



⑪ ^{いもじや} 鋳物師屋遺跡出土品



⑪ ^{いもじや} 鋳物師屋遺跡出土品



⑭ ^{めおとし} 女夫石遺跡出土品



⑫ ^{おさぐち} 長田口遺跡出土品



⑮ ^{うめのき} 梅之木遺跡



⑬ ^{いしのつぼ} 石之坪遺跡出土品



⑯ ^{きんせい} 金生遺跡



⑰ 出産土器 (津金御所前遺跡)
つがねごしよまえ



⑳ きんせい
金生遺跡出土品



⑱ すわはら
諏訪原遺跡出土品



㉑ てらどこ
寺所第2遺跡出土品



⑲ いしほらだ
石原田遺跡出土品



㉒ ちくう
竹宇遺跡出土品



構成文化財の写真一覧

^{かいど}
(23) 海戸遺跡出土品



(顔面把手付深鉢形土器)

^{めきり}
(25) 目切遺跡出土品



(顔面把手付深鉢形土器)



(顔面把手)



(壺を持つ妊婦土偶)

^{えのきかきがいと}
(24) 榎垣外遺跡出土品



^{かじょうじ}
(26) 土偶 (花上寺遺跡)



しみずだ こくようせきげんせき
(27) 清水田遺跡 黒曜石原石



(重さ 6.5kg の巨大な原石)

そね
(30) 曾根遺跡



なしくぼ
(28) 梨久保遺跡と出土品



(コハク(左)とヒスイの装身具)

(31) ジャコッパラ遺跡群



ひろはた
(29) 広畑遺跡と出土土偶



やしまがはら くるまやま おどりば
(32) 八島ヶ原湿原・車山湿原・踊場湿原



(八島湿原)

(踊場湿原)



(高さ6cm 小柄な土偶)
ちかとうしゃ じゅうにのき
(33) 千鹿頭社・十二ノ后遺跡



(34) 諏訪地域考古資料(藤森栄一蒐集品)



あなぼ
(35) 穴場遺跡 18号住居址出土品



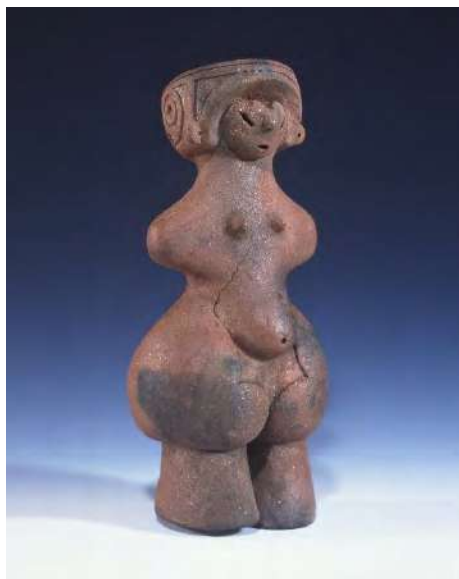
こうじんやま
(36) 荒神山遺跡出土品



おお
(37) 特殊型土器(大ダッショ遺跡)



(38) 土偶「縄文のビーナス」



(39) 土偶「仮面の女神」



(40) 尖石遺跡



(復元された竪穴住居
(上)蛇体把手深鉢形土器(右))



(41) 中ッ原遺跡



(42) 上之段遺跡



(43) 駒形遺跡



ございわ
(44) 御座岩岩陰遺跡



おおみやま
(47) 大深山遺跡



(45) 八ヶ岳の黒曜石原産地



(冷山の巨大な黒曜石露頭)

おおみやま
(48) 大深山遺跡出土品



(麦草峠の露頭)

(49) 川上村産水晶



たてしなやま
(46) 蓼科山 (左端)・八ヶ岳



(50) イシナシ



おめぐら
(51) 男女倉遺跡群



(黒曜石の水)



(旧石器時代の石槍)

げんさんちたかやま
(52) 黒曜石原産地鷹山遺跡群



(左：旧石器時代の石槍 右：縄文時代の矢じり)

おいわけ
(53) 追分遺跡

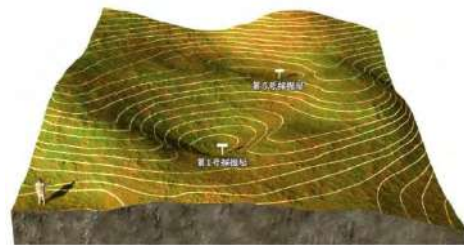


(町立黒曜石体験ミュージアムには遺跡から剥ぎ取った地層が展示されている。)

ほしくそとうげ
(54) 星糞峠 黒曜石原産地遺跡



(クレーター状の窪み)



(窪みのコンピュータグラフィック)



(縄文人の黒曜石採掘復元模型)

おおにたん
(55) 大仁反遺跡出土品



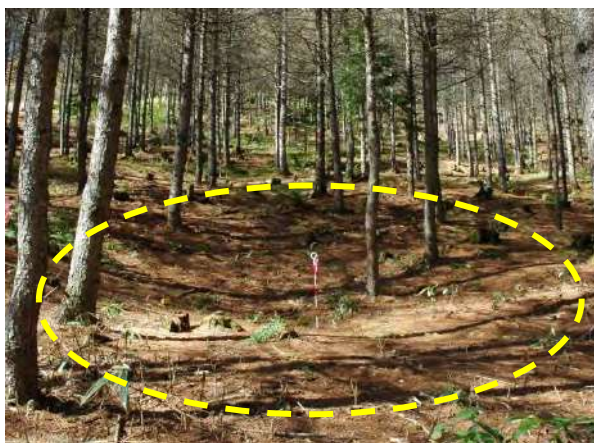
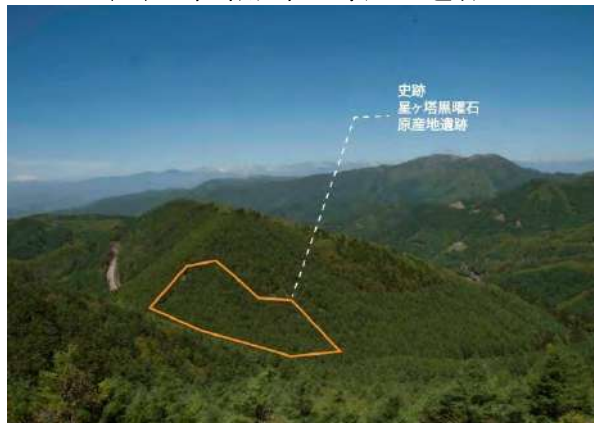
こうろがた
(56) 香炉形土器(中道遺跡)



わだとうげ
(57) 和田峠と歴史の道(史跡中山道)



ほしがとう
(58) 星ヶ塔黒曜石原産地遺跡



(クレーター状の窪み)

しゅさい つちだ
(59) 朱彩壺形土器(土田遺跡)



いどじり
(60) 井戸尻遺跡



^{とうない}
(61) 藤内遺跡出土品



^{とうない} ^{いだいら}
(64) 藤内遺跡・居平遺跡



^{さかうえ}
(62) 坂上遺跡の土偶



^{とうどのみや}
(65) 人体絵画土器 (唐渡宮遺跡)



^{あきゆう}
(66) 阿久遺跡



(発掘時に復元した立石・列石)

^{そり}
(63) 曾利遺跡出土品



^{がめんつきつりて} ^{まえおね}
(67) 顔面付釣手土器 (前尾根遺跡)



うえのほら
(68) 上野原遺跡出土品



うしろ
(69) 後呂遺跡出土品



(部分)

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
061	星降る中部高地の縄文世界 —数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—

(1) 将来像 (ビジョン)

【現状と課題】

八ヶ岳山麓を中心とする中部高地には、縄文時代の遺跡が数多く点在し、造形美あふれる個性豊かな土偶や土器が多数発掘されている。中部高地の縄文土器は、縄文時代の人々に語り継がれた物語を文様で表したと評され、その高い芸術性から国宝・重要文化財に指定された。また、ほかの地域では見ることのできない縄文時代の黒曜石鉱山があり、まるで「星」のように輝きを放つ黒曜石のかけらが無数に散らばった景色を目にすることができる。信州産黒曜石は良質なものが多く、最高級の矢じりの材料として日本各地にもたらされた、日本最古のブランド品である。復元された竪穴住居跡が立ち並ぶ史跡公園では、雄大な山々に囲まれた美しい景観の中で、まるで縄文時代にタイムスリップをしたかのような感覚を覚え、山の幸に恵まれ繁栄した縄文人の存在を身近に感じることができる。この地域には「縄文ファン」が地域内外から数多く訪れている。

平成30年の日本遺産認定を契機に、縄文の魅力をアピールする構成団体主催事業が展開し、縄文文化に関連した取組を行う民間事業者の増加や「日本遺産」ストーリーを活かした地域ブランドの確立に向けた構成団体単位の取組が進展した。一方、構成団体をまたいで展開した事業の実施や観光誘客、経済的波及効果といった面では一定の成果に留まっている。特に令和元年度以降はコロナ禍の影響もあり、日本遺産が十分に理解され、浸透したとは言い難い。今後は、民間事業者との連携を強化し、受入環境の整備、情報発信機能の強化、周遊促進をさらに展開していく必要がある。

【目指すべき姿】

1. 日本遺産のストーリーと地域資源を組み合わせた観光誘客と経済活性化

中部高地には、雄大な自然とそれに育まれた伝統産業や農畜産物など魅力的な観光コンテンツが多数ある。民間事業者と連携し、これらと縄文のストーリーを組み合わせることで、特色あるツアー造成を行い、来訪者に対し日本遺産を通じて地域の魅力を体験してもらえる仕組みを構築する。また、地域内の様々な業種の民間事業者等と協働することで、日本遺産のストーリーを活かした商品を開発し、地域経済の活性化を図る。

2. 「縄文文化体験エリア」としての地域ブランドの確立

中部高地の芸術的で神秘的な土偶や土器、美しく輝く黒曜石や水晶の原産地など、他の地域にはない魅力的な縄文文化遺産をより一層磨き上げるとともに、この3年間に日本遺産のストーリーを活かして創造した新たな付加価値を積極的に発信し、唯一無二の「縄文文化体験エリア」として国内外から選ばれる地域ブランドを確立する。

3. 日本遺産を通じて地域に誇りを感じ、主体的に活動する人々の増加

地域住民、民間団体などに対し、日本遺産のストーリーを伝え、理解を促す取り組みを行うことにより、地域に根付いた「縄文文化」の魅力や価値を再認識し、地域の宝としてその魅力発信や活用について主体的に活動する人材の育成を図ると共に、シビックプライドを醸成し、日本遺産に関わる関係人口の増加につなげていく。

【上位計画への位置づけ】

山梨県では「山梨県文化財保存活用大綱」において、日本遺産や文化財を幅広く活用した観光・地域振興を図ることを掲げている。

長野県では、県総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0 諏訪地域計画」において、日本遺産のストーリーを活かした八ヶ岳西麓地域の地域活性化とブランド力の強化を推進することを明記している。

甲府市では甲府市文化財保存活用地域計画において、市内に所在する構成文化財の価値を位置づけており、他の構成団体でも計画策定に向け検討を進めている。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産関連施設への入館者数

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	180,105	262,424	集計中	284,000	302,000	320,000

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 令和8年度の入込数が認定後の最大実績数を達成した平成30年度の実績302千人を上回る人数を目指す。

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：ロゴマークの使用数

年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	25	40	39	50	60	70

指標・目標値の設定の考え方及び把握方法 構成団体主催事業においてロゴマークを積極的に使用し、ブランディングを図る。また、民間事業者との協働により商品開発を行う際に、ロゴマークの使用を呼びかける。

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産関連商品の売上げ						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	—	—	—	8,000,000	9,000,000	10,000,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産関連商品の売上げ等の合計。令和8年度に1千万円を目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が活用可能な状態にある（棄損滅失していない）割合						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	100	100	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成文化財が棄損滅失していない割合を指標として設定。文化財の保存管理を継続的に行う。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：外国人観光客数						
年度	実績			目標		
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
数値	3,034	8,285	集計中	100,000	300,000	500,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	令和8年度の客数が、認定後の事業初年度である平成30年度の実績496,245人を上回る人数を目指す。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

1. 民間事業者との連携強化

日本遺産事業の推進にあたり、民間事業者と構成団体単位で連携したため、広域での事業展開が課題となっている。今後は広域での事業展開を見越し、民間事業者との連携を強化しつつ、民間事業者が参画し易い環境を整え、協議会への参画を促す。

【対策と取組】

- 地域の民間事業者等への日本遺産ストーリーや活用事例の積極的な周知、参画促進
- 協議会と民間事業者等との日本遺産活用に対する意見交換の実施
- 事業を効果的に進めるための戦略立案

2. 組織体制の強化

当協議会による日本遺産事業は、構成団体単位での取組と事業範囲により複数の構成団体が連携する取組を並行して実施してきたところである。しかし、構成団体が多いことから、取組結果やその課題の共有などに一定の時間がかかり、スピード感に欠けるという課題があった。このため、今後は、事業ごとにワーキンググループを立ち上げ、課題や情報を素早く把握しながら迅速に事業内容を決定できる体制を構築する。

【対策と取組】

- ワーキンググループの設置・取組の推進

3. 観光事業化（ツアー造成事業及び商品開発）の取り組み

令和5年度日本遺産プロデューサー派遣において指導いただいた事項を参考に、ワーキンググループでツアー造成事業及び商品開発を検討し、日本遺産ストーリーの観光事業化を強化していく事業を実施する。

1) ツアー造成事業

これまでツアー造成事業は構成団体単位の取り組みであったが、ツアー造成ワーキンググループにおいてエリア内で縄文を活かして活動する民間事業者と連携し、日本遺産のストーリーを食や体験等の様々な面で感じることができ、付加価値のある広域ツアーを造成する。造成したツアーは観光事業者との意見交換やモニターツアーの実施によりPRを強化し、販売につなげる。また、ホームページに掲載するモデルルートや人気スポット等の観光情報をさらに充実させ、周遊観光を促進させるツアーを協議会ホームページに掲載し、観光施設等への誘客を図る。

【対策と取組】

- 民間事業者等との意見交換会の実施による連携強化
- 認定エリア内の魅力ある食（ワインやフルーツ等）や既に民間事業者が展開している縄文をテーマにした商品（パン、スイーツなど）や縄文遺跡での宿泊体験、日本遺産の博物館等を絡めたバランスのとれた当地域独自のツアー造成
- 協議会ホームページにおけるモデルツアーや人気スポットの充実

2) 商品開発

商品開発ワーキンググループにおいて、特色ある土偶や出土品や日本遺産のストーリーを活かした商品を民間事業者等と意見交換し、連携しながら開発につなげる。

(商品開発候補)

- ・当地域の土偶は妊婦をかたどったものが多いことから、女性をターゲットにした安産祈願のアイテムを開発する。

【対策と取組】

○民間事業者との意見交換による連携推進

4. 人材育成

日本遺産の観光誘客事業としての更なる活用を図るため、構成団体単位で取り組んできたボランティアガイドの育成を引き続き行うとともに、ガイドの広域的な研修や連携を推進し、民間事業者やDMO、観光協会と協議し、育成したガイドを紹介する仕組みを構築する。

また、学校教育との連携により子どもたちの縄文文化に対する誇りや地域愛を醸成し、文化資源の次世代への確実な継承を目指す。

【対策と取組】

○既存のガイドボランティアの育成と広域連携の推進

○ガイド利用に係わる仕組み作り

(4) 実施体制

実施主体：甲信縄文文化発信・活性化協議会

会長：長野県 副会長：山梨県

事務局統括：長野県

構成団体：長野県、茅野市、富士見町、原村、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、
長和町、川上村、山梨県、甲府市、北杜市、韮崎市、南アルプス市、
笛吹市、釈迦堂遺跡博物館組合

協力会員：甲州市

協議会会議：◎総会…最高決議機関（各団体の長）

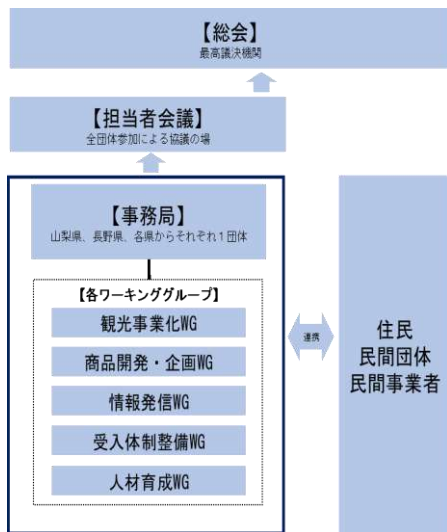
◎担当者会…会務の企画立案（構成団体担当者）

◎事務局…全体統括、各種会議の運営及び資料作成（山梨県、長野県、各県から1市町村ずつの4団体で構成）

◎ワーキンググループ（WG）会議（構成団体担当者）

※民間事業者との連携を強化しており、環境が整い次第、参画していただく予定。

【協議会の運営体制図】



● ツアー造成WG

認定エリア内におけるツアー造成を推進する。

● 商品開発WG

縄文時代のツール（土器・土偶・黒曜石）を素材とした商品開発や関連イベントの企画を推進する。

● 情報発信WG

イベント情報に限らず地域の景観や観光情報を含めた情報発信を行う。

● 受入整備WG

地域への来訪者が日本遺産のストーリーを体感できるコンテンツを整備する。

● 人材育成WG

日本遺産のストーリーを解説するガイドを育成する。

※ワーキンググループメンバーは固定的なものではなく、課題にあわせて構成団体を追加するなど流動的に対応できる組織とする。

【人材育成・確保の方針】

日本遺産のストーリーをより幅広い観光客に伝えるため、これまで構成団体で行ってきたボランティアガイド養成を引き続き進めるとともに、人材育成ワーキンググループにおいてガイドの広域的な研修や連携を推進する。

地域住民に対しては、構成団体が行う各種講座や民間団体と連携した縄文に関するイベント等において、日本遺産に対する学習機会を提供するとともに、これらの機会を通じてガイド養成講座を紹介し、勧誘につなげる。

また、小・中学校において郷土愛を育む活動として、学芸員による出前講座を実施するとともに、民間団体と連携し日本遺産関連イベントへの協力や参加を通じた次世代教育を推進する。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

【組織体制整備】

事業実施主体である「甲信縄文文化発信・活性化協議会」は当初より行政が主体となって組織され、事務局も代表自治体である長野県または山梨県が担当しているが、今後は民間団体等との連携強化により観光事業化を意識した取組を進め、地域経済の好循環を創出していく。観光事業者のほか、地域で活動している民間団体や住民にも当協議会の活動を共有し、協議会への新規参入を促すことで、将来的には協議会の運営を民間主体とし、自立可能な体制を構築する。

【外部団体との機能分担】

圏域内のDMOや観光協会等との連携を強化し、モデルコースの開発や着地型ツアーの造成など民間事業者が主体的に日本遺産を活用できるよう取り組む。認定エリア内の豊か

な自然、食や伝統文化等魅力ある観光資源と「縄文文化」を結び付けることで、エリア全体への周遊観光や域内消費につなげる。

また、縄文を活かした活動を行っている民間事業者と連携し、「縄文文化体験エリア」として地域内外からも人を呼び込める、地域一体となったPR体制を整える。

<具体的な連携先>

- 一般社団法人ちの観光まちづくり推進機構
- 株式会社ライブラ
- 縄文どんぐりカフェ
- 下諏訪町観光振興局
- 富士見町商工会
- ハケ岳ツーリズムマネジメント
- 茅ヶ岳歴史文化研究所
- ベーカリールールブル
- 花と木の工房メイフラワーズ
- 岡谷豆部

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財の史跡は、それを管理する構成団体が引き続き整備計画を策定のうえ、適切な保存と整備を進めていくことで、活用に適した環境を創出する。その維持・管理については、民間団体や地域住民のさらなる参加を促す。それぞれの関連施設では、ほかの関連施設や周辺の情報をパネルなどで紹介し（場所・行き方・時間・構成文化財ほかグルメ情報・観光情報など）、見学者にほかの関連施設やその周辺の周遊を促す仕組みを作る。

また、域内に点在する構成文化財及び関連施設、観光施設を繋ぐツアー造成などを進め、面としての広がりを持たせる。

構成文化財や関連施設について、外観からでも日本遺産関連施設等であることがわかるようなサインの設置を引き続き検討し、利用者への利便性の向上を図る。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	協議会組織の強化		
概要	構成団体の一体感をより高め、日本遺産の取組強化を図るとともに、民間事業者との連携を強化し、民間事業者が参画し易い環境を整え、協議会への参画を促す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ワーキンググループの設置	ワーキンググループを設置し、迅速な情報共有と検討を行うとともに、協議会の組織体制の強化を図る。	協議会
②	民間団体との連携	協働する団体（観光協会・商工会・民間事業者）と連携して事業を実施する。	協議会・ 観光協会・ 商工会・ 民間事業者
③	日本遺産の取り組み強化のための意見交換会	協議会の一体感の更なる醸成や、日本遺産に係る取組の強化に向け、構成団体の首長を交えた意見交換会を開催する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	民間事業者等との連携実績		7 団体
2022			10 団体
2023			10 団体
2024	民間事業者等との連携実績		13 団体
2025	民間事業者等との連携実績		16 団体
2026	民間事業者等との連携実績		19 団体
事業費	2024 年度：0 千円 2025 年度：0 千円 2026 年度：0 千円		
継続に向けた事業設計	山梨県及び長野県と各県から 1 市町村ずつの 4 団体で事務局を構成する。5 つのワーキンググループで各種事業を検討し、実施する。また、各構成団体が民間事業者・観光協会・商工会への連携を進め、協議会への参画を促す。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	日本遺産事業の計画的な実施のための体制構築		
概要	ワーキンググループで取り組みに係わる進捗を把握し、担当者会にて課題解決を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	PDCA サイクルをまわす 仕組みの整備	ワーキンググループが地域活性化計画で設定した目標値に対する進捗状況を把握し、担当者会で全体の状況確認及び課題の特定や対応策について協議する。	協議会
②	戦略立案等の業務委託	日本遺産事業展開に関する戦略立案等を委託し、アドバイスに基づき戦略的な事業推進を図る。	受託業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	事務局・担当者会・WGの開催回数		6回
2022			4回
2023			21回
2024	事務局・担当者会・WGの開催回数		12回
2025	事務局・担当者会・WGの開催回数		12回
2026	事務局・担当者会・WGの開催回数		21回
事業費	2024年度：100千円 2025年度：100千円 2026年度：100千円		
継続に向けた 事業設計	<p>組織体制を整備し、課題を迅速に把握し対応できる体制を構築する。民間の知見を取り入れ、効果的な取組を進めていくため、戦略立案等について委託する。</p> <p>また、構成団体が文化財保存活用地域計画を策定する際には、日本遺産構成文化財を明確に位置づける。</p>		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	日本遺産活用のための人材育成・確保と活用		
概要	日本遺産の魅力を地域内・外へ発信するための人材育成として、ガイド養成講座を実施し、ガイドを活用する仕組みを構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	構成団体によるガイドの育成と活用促進	構成団体が実施しているガイド養成を引き続き行うとともに、広域的な研修の実施などにより連携強化を図る。また、民間観光事業者によるガイドツアーと連携し、育成したガイドの活用を働きかける。	協議会・ガイド団体・民間事業者
②	人材育成ワーキンググループの開催	人材育成に特化したワーキンググループを設置し、事業推進に資する多様なガイド育成や人材確保について検討を進める。	ワーキンググループ
③	英語話者ガイドの活用	インバウンド対応のため、認定後6年間の取り組みにより養成した英語話者をツアーなどの場で活用する。	構成団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ガイド養成講座及び研修等の開催回数		7回
2022			15回
2023			5回
2024	ガイド養成講座及び研修等の開催回数		8回
2025	ガイド養成講座及び研修等の開催回数		11回
2026	ガイド養成講座及び研修等の開催回数		15回
事業費	2024年度：0千円　2025年度：50千円　2026年度：50千円		
継続に向けた事業設計	観光客に加え、地域住民に対しても広く日本遺産のストーリーの魅力を発信できる、ガイド育成につきワーキンググループを中心に検討し、活躍の場の提供も併せて進めていく。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	広域的な周遊を促す環境整備とモデルルートへの整備		
概要	認定エリアにおけるストーリー理解と周遊促進のための環境整備やモデルルートへの整備・周知により、日本遺産関連施設の付加価値向上と経済活性化を促す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	周遊促進のためのモデルルート整備	エリア内の食など特色あるコンテンツと日本遺産を絡めたモデルルートについて、観光スポット等と併せてHP等でPRすることで、認定エリア内の周遊と消費を促す。	ワーキンググループ・構成団体・民間事業者
②	受入体制整備ワーキンググループの設置	ワーキンググループを設置し、日本遺産ストーリーをわかりやすく伝える解説パネル等の整備を行う。	ワーキンググループ・構成団体
③	中部高地における縄文景観の整備	史跡整備を行う構成団体を中心として、縄文景観の整備を行う。	構成団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	解説パネル等の整備件数（特別展・企画展等）		10件
2022			10件
2023			10件
2024	解説パネル等の整備件数（特別展・企画展等）		20件
2025	解説パネル等の整備件数（特別展・企画展等）		25件
2026	解説パネル等の整備件数（特別展・企画展等）		30件
事業費	2024年度：10,710千円 2025年度：11,394千円 2026年度：11,394千円		
継続に向けた事業設計	受入体制整備ワーキンググループを設置し、施設の展示パネルを整備することにより来訪者の満足度向上を図るとともに、ストーリーの理解と認定エリア内の周遊を促進するよう取り組みを進める。		

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	中部高地の魅力を活かしたツアー造成及び商品開発・販売		
概要	中部高地の魅力あるコンテンツ（自然、フルーツ、ワイン等）と日本遺産ストーリーを絡め、付加価値のある魅力的なツアー・商品・体験コンテンツ等の開発・販売を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ツアー造成ワーキンググループによるツアー造成	民間事業者等と連携し、中部高地の魅力あるコンテンツ（自然、フルーツ、ワイン等）と日本遺産ストーリーを絡めた魅力的なツアー造成を行い、商品化につなげる。	協議会・民間事業者（観光協会）
②	日本遺産のストーリーを活かした商品開発・販売	商品開発ワーキンググループにおいて、民間事業者と意見を交換し、連携しながら構成文化財等を活かした商品開発と販売を促進し、経済活性化を図る。	ワーキンググループ
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	造成するツアー数		6件
2022			9件
2023			10件
2024	造成するツアー数		12件
2025	造成するツアー数		14件
2026	造成するツアー数		16件
事業費	2024年度： 0千円 2025年度： 0千円 2026年度： 0千円		
継続に向けた事業設計	協議会や構成団体によるモデルツアーの実施や民間事業者等への積極的な働きかけにより、日本遺産を活用したビジネスの活性化を図り、認定エリア内の消費額を増加させていく。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	幅広い年代に対する啓発活動		
概要	認定エリア内で日本遺産の認知・関心を高め、シビックプライドを醸成するため、学校教育と連携した普及啓発や、地域住民向けのイベント等を開催する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	幅広い年代に対する普及啓発	構成団体において、学校や公民館等と連携し、日本遺産に関する普及啓発活動(出前講座等)を実施する。	構成団体
②	エリア内独自の日本遺産PR事業	2月13日(日本遺産の日)及び5月24日(日本遺産認定日)にパンフレット配布等による日本遺産PR事業を実施する。また、構成団体が行うイベントにおいても、日本遺産の構成文化財などを積極的に周知する。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	学習した人数		15,913人
2022			20,361人
2023			集計中
2024	学習した人数		22,000人
2025	学習した人数		23,000人
2026	学習した人数		24,000人
事業費	2024年度:230千円 2025年度:230千円 2026年度:230千円		
継続に向けた事業設計	学校教育や公民館などとの連携により、幅広い世代に対する継続的な学習機会の提供を行うとともに、民間団体と連携し、日本遺産の普及啓発活動を行う。構成文化財を紹介する学習体験を通じて、日本遺産ストーリーを周知する。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	ホームページ・SNS等を通じた魅力発信		
概要	日本遺産ストーリーに関する情報のほか、地域内外の人々が訪れたいくなるような魅力ある画像やイベント情報、モデルコース等を、HP等で積極的に情報発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ホームページによる魅力発信	協議会で設置している専用サイトの掲載内容をさらに充実させ、多言語化を図るとともに、インスタグラムのSNSを活用し、それぞれの特性を活かした発信をすることによって、HPに誘導する。 HPには作成したモデルコースやツアー、関連商品等の掲載を行い、誘客につなげる。	協議会・構成市町村・民間事業者
②	SNSによる画像更新	認定エリア内の日本遺産の魅力について構成団体が連携して画像収集を行い、SNSを活用して日常的に幅広い層へ情報を発信する。	ワーキンググループ
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	ウェブサイトのページビュー		79,749回
2022			90,160回
2023			集計中
2024	ウェブサイトのページビュー		95,000回
2025	ウェブサイトのページビュー		100,000回
2026	ウェブサイトのページビュー		105,000回
事業費	2024年度：269千円 2025年度：269千円 2026年度：269千円		
継続に向けた事業設計	地域内外の人々を惹きつける情報をホームページやSNSで発信するとともに、効果的な情報発信手法について、ワーキンググループで検討する。		